

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

子どもの貧困問題と若手社員の奨学金返済支援制度 鈴木 茂晴 (日本証券業協会会長)

1. 日本は先進国の中で貧困率の高い国だといわれている。特に子どもの貧困が問題なのは、本人の努力や意思とは無関係に教育の機会において格差が生じ、その後の就職の選択肢が狭まるからだ。貧困の連鎖を断ち切るためにも金銭的な支援を惜しまないのが大切だ。日本は義務教育が終わる高校以降の援助に目が行きがちだが、より求められるのは小学校に入る前の就学前教育だと思う。
2. 幼少期は人格形成の土台作りとなる重要な時期で、この時期に育まれる自己肯定感は大人になってから様々なことに自信を持って挑戦する意欲の源泉となる。日本はOECD加盟国と比較して就学前教育費の公的負担割合が低く、家計に依存しがちだ。
3. 貧困から早く抜け出すための支援でもう一つ手薄になっている部分がある。奨学金の返済だ。今の若者は、昔と比べて賃金が低い上に奨学金の返済という重い負担を抱えて生活している。これでは安心して結婚や出産など、次のライフステージに進むことができない。大和証券グループでは2018年夏、社員の奨学金返済を支援する制度を新たに設けた。奨学金を会社が立て替え払いし、入社6年目以降に無利子で分割返済してもらう。金利分は会社が負担する仕組みだ。優秀な社員の確保にもつながる。

(参考:「日経ビジネス」2018年11月26日号)

心・健康・環境について

テニスで10年の延命

1. 1975年からデンマーク・コペンハーゲン市在住の一般市民を対象として大規模疫学調査(コペンハーゲン心血管研究)によると、スポーツの種類で延命効果が異なるらしい。対象種目は、①ジムでのフィットネス②自重による筋トレや体操、いわゆる徒手体操③ジョギング④水泳⑤サイクリング⑥サッカー⑦バドミントン⑧テニスの八つ。
2. その結果、テニスをしていた人の平均寿命は、「運動不足」の人たちよりも平均9.7年間も長くなったことが判明した。次いでバドミントンで、平均6.2年、第3位はサッカーで4.7年、以下サイクリング3.7年、水泳3.4年、ジョギング3.2年、徒手体操3.1年と続く。意外のことに最も延命効果が低かったのは、フィットネスで1.5年だった。しかもジムで費やされる時間は一番長かった。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2018年11月17日号)

経営者のための理念・哲学

21世紀は徳に基づいた経営

鈴木 敏文 (セブン&アイホールディングス
名誉顧問)

矢野 博文 (大創産業会長)

1. 20世紀の経営者は効率とか利益を中心にものを考えました。それが正義でした。小売業もそれで伸びてきました。ところが21世紀は変わりました。自分さえ儲ければいいという考え方には共鳴できない。一生懸命とか優しさとか思いやりとか徳を主題に考える経営者じゃないと生き残れないようになっていると思います。(矢野博文)
2. 利益や効率主義ではなく、徳に基づいた経営というのは非常に大事な視点です。昔から私のモットーは「変化対応」。変化は当然起こるから、あらゆる変化に対していかに対応するかを考えていくことが大事です。変化の激しいこの時代に、過去の成功事例にすぎりついたら、失敗が多くなる。ですから過去を捨てろと言いたいです。(鈴木敏文)

(参考:「致知」2019年2月号)

古典に学ぶ

口は禍いの門と同時に福の門

(解説) 口は禍いの門であると共に福の門でもある。芭蕉の句に「ものいえば唇寒し秋の風」というのがある。これも要するに口は禍いの門ということを文字化したものであろうけど、こういう具合に禍いの方ばかり見ては消極的になり過ぎる。極端に解釈すればもの言うことができないことになる。それではあまり範囲が狭過ぎるのである。

(参考: 洪沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)